

令和5年度

学 力 向 上 プ ラ ン
【前期】

上尾市立大石南小学校

目 次

上尾市立大石南小学校学力向上プラン「グランドデザイン」	1
1 学力調査結果の概要	
(1) 上尾市立小・中学校学力調査 【2～6年生：国語、算数】	2
(2) 全国学力・学習状況調査 【6年生：国語、算数、理科】	7
(3) 埼玉県学力・学習状況調査 【4～6年生：国語、算数】	10
2 学力向上を図る取組	
(1) 各教科の授業における取組	12
① 国語科 学力向上プラン	
② 社会科 学力向上プラン	
③ 算数科 学力向上プラン	
④ 理 科 学力向上プラン	
⑤ 他教科の授業改善 生活科、音楽科、図画工作科、家庭科、体育科、英語活動・外国語活動・外国語科、 特別の教科 道徳	
(2) 教育活動全体を通じた取組	27
○本校の特色ある取組	
○家庭教育との連携	

上尾市立大石南小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

《心豊かでたくましい子の育成》

○思いやりのある子（徳） ○よく考える子（知） ○元気な子（体）

学校課題研究主題

「主体的に学び、自らの考えや思いを適切に表現することができる児童の育成」
～指導事項を明確にした「わかる」国語科授業を目指して～

学力・学習状況調査の結果

R4 全国学力・学習状況調査	R4 埼玉県学力・学習状況調査	R4 上尾市立小・中学校学力調査
<p>○全国の平均正答率と比較し、国語では「我が国の言語文化に関する事項」の領域が同程度、算数では「変化と関係」の領域において上回る、理科では「粒子」を柱とする領域において上回る結果となった。</p> <p>●国語では「話す」「聞く」「書く」「読む」全般で、算数では、特に「図形」領域で、理科では特に「生命」を柱とする領域で全国平均正答率との差があり、課題が見られた。</p>	<p>○本校の平均正答率は国語・算数ともに、県の平均正答率を下回っているものの、学力を伸ばした児童の割合は、6年生は国語・算数ともに、5年生は国語において県の割合を上回っている。</p> <p>●国語においては、特に「読むこと」、算数においては、特に「数と計算」「図形」領域で課題が見られた学年が多い。</p>	<p>○国語では、校内の平均正答率が、目標値と「同程度」の学年がほとんどであった。特に「知識・技能」に関しては、6学年中5学年が「同程度」という結果であった。</p> <p>●算数では、校内の平均正答率が、目標値を「下回っている」学年が多かった。特に「思考・判断・表現」に関しては、6学年中5学年が「下回っている」結果となり、課題が見受けられた。</p>

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力、判断力、表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字の読み書き、文や文章の構成に関する事項の確実な定着 四則計算及び図形の基本的な概念や性質の確実な定着 	<ul style="list-style-type: none"> 筋道を立て、論理的に説明することや、理由や根拠を表現する力の育成 自分の思いや考えを伝え合う力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を発見し、それを解決しようとする態度の育成 教え合い、励まし合う態度の育成

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力、判断力、表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> 算数科において、習熟度別学習による個に応じた指導を行う。 「まなびポケット」や大型モニタ等を活用し、児童の視覚に訴える指導を行う。 既習事項を振り返り、それを生かした課題解決を促すことで、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力、判断力、表現力を高める言語活動を重視し、対話的な活動を重視する。 毎時間の授業において、学習課題を明確に示す。 課題に対して、個人で考え、記述する時間を毎時間の授業に設定する。 対話的活動を意図的に設定し、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業準備、開始時刻を徹底し、落ち着いて授業を始める。 ICTを活用し、興味・関心を高められる授業を行う。 課題を明確にし、児童がねらいに集中し、主体的に学習に取り組める時間を確保する。 意図的なペア・グループ学習を取り入れる。

本校の特色ある取組

- 毎時間の授業の充実
(既習事項を生かして各教科の資質・能力を育てる授業)
- 読書活動の充実 ・音読活動の充実
- 縦割り活動による協働活動の充実

家庭教育との連携

- 学級懇談会、個人面談（年2回）、教育相談日の設定・実施
- 家庭による宿題の見届け、確認
- 「家庭学習の進め方」配付による啓発

1 学力調査結果の概要

(1)上尾市立小・中学校学力調査(令和4年12月実施)

第2学年(令和5年度第3学年)【国語】

項目	項目
考察	<ul style="list-style-type: none">・全国、市町村共に下回っている。・「読むこと」の正答率が低い。・「話すこと・聞くこと」の正答に大きく差があり▼が半数を超えている。・「読むこと」について▼が半数以上いる。
課題	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・詩や話の内容を理解することに課題がある。・既習の漢字を正しく書くことができない児童が多い。・問題を読みとることが難しく、何を答えれば良いかわからない児童がいる。 <p>(要因分析)・長い文章を読み慣れていな</p>

第2学年(令和5年度第3学年)【算数】

項目	項目
考察	<ul style="list-style-type: none">・全国平均と比べると、計算は低いが、差は少ない。・「水のかさ」を苦手に行っている児童が多くいる。
課題	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・時刻と時間の学習の理解ができていない児童が多い。・単位(長さ、かさ)の理解に課題が残る。 <p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none">・普段の生活の中で、測定の領域はなじみが少ないものであるため、実感を伴った理解となっていない。

第3学年(令和5年度第4学年)【国語】

項目	項目		
考察	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く設問に対して、無回答が目立つため、主体的に取り組む態度が低い。 基礎に関しては、市のほぼ平均であるが、活用にいたっては、活用を下回っている。 漢字の読み、書きは市の平均とほぼ同じである。 		
課題	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 記述の問題での無回答が目立つ。 説明文の内容を読み取る問題の正答率が低い。 漢字の音訓、ローマ字読みが平均を下回っている。 指定された文字数、段落で文章を書くことができていない。 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「難しい」や「文章が長い」と感じ、諦めているため。 要点、中心となる語を見つけられていない。 叙述を基に、文章を捉える力が弱い。 作文や日記を書く経験が少ない。 </td> </tr> </table>	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 記述の問題での無回答が目立つ。 説明文の内容を読み取る問題の正答率が低い。 漢字の音訓、ローマ字読みが平均を下回っている。 指定された文字数、段落で文章を書くことができていない。 	<p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「難しい」や「文章が長い」と感じ、諦めているため。 要点、中心となる語を見つけられていない。 叙述を基に、文章を捉える力が弱い。 作文や日記を書く経験が少ない。
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 記述の問題での無回答が目立つ。 説明文の内容を読み取る問題の正答率が低い。 漢字の音訓、ローマ字読みが平均を下回っている。 指定された文字数、段落で文章を書くことができていない。 	<p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「難しい」や「文章が長い」と感じ、諦めているため。 要点、中心となる語を見つけられていない。 叙述を基に、文章を捉える力が弱い。 作文や日記を書く経験が少ない。 		

第3学年(令和5年度第4学年)【算数】

項目	項目		
考察	<ul style="list-style-type: none"> たし算、ひき算の問題は、市の平均を大きく上回っている。 基礎の問題も活用の問題も、どちらも市の平均くらいである。 計算問題、時間の単位の問題は、よくできている。 		
課題	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 10000より大きい数ができていない。 文章問題からの立式ができていない。 情報量が多い問題で、誤答が目立つ。 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 相対的な数の大きさ、100倍、1000倍した数ができていない。 文章問題を正しく読み取ることができていない。 複数の情報から、必要な情報を取捨できない。 </td> </tr> </table>	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 10000より大きい数ができていない。 文章問題からの立式ができていない。 情報量が多い問題で、誤答が目立つ。 	<p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 相対的な数の大きさ、100倍、1000倍した数ができていない。 文章問題を正しく読み取ることができていない。 複数の情報から、必要な情報を取捨できない。
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 10000より大きい数ができていない。 文章問題からの立式ができていない。 情報量が多い問題で、誤答が目立つ。 	<p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 相対的な数の大きさ、100倍、1000倍した数ができていない。 文章問題を正しく読み取ることができていない。 複数の情報から、必要な情報を取捨できない。 		

第4学年(令和5年度第5学年)【国語】

項目	項目		
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを表す言葉の学習に関しては、全国平均を上回っている。 ・昨年度と比べると、漢字の読み書きの正答率が伸びている。 ・文と文の接続の関係、文章の内容を捉える問題に関しては、全国平均を大きく上回っている。 		
課題	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述を基に文章の内容を読み取ることに課題がある。 ・伝えたいことを明確にして、自分の考えを伝えることに課題がある。 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読むことにおいて、文章を構造的に読み取る学習が不十分である。 ・自分の考えを伝える言葉を見つけたり、表現方法が分かっていない。 </td> </tr> </table>	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述を基に文章の内容を読み取ることに課題がある。 ・伝えたいことを明確にして、自分の考えを伝えることに課題がある。 	<p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読むことにおいて、文章を構造的に読み取る学習が不十分である。 ・自分の考えを伝える言葉を見つけたり、表現方法が分かっていない。
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述を基に文章の内容を読み取ることに課題がある。 ・伝えたいことを明確にして、自分の考えを伝えることに課題がある。 	<p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読むことにおいて、文章を構造的に読み取る学習が不十分である。 ・自分の考えを伝える言葉を見つけたり、表現方法が分かっていない。 		

第4学年(令和5年度第5学年)【算数】

項目	項目		
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比べると、学習への意欲が下がっていることが分かる。 ・四則混合で()を用いた式の計算順序に関しては、全国平均を上回っている。 		
課題	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの読み取りが課題である。 ・思考・判断・表現に大きな課題がある。 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフやデータ分析の仕方が定着していない。 ・文章から分かっていることは何かということや何を求めるのかを読み取る力が弱い。 </td> </tr> </table>	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの読み取りが課題である。 ・思考・判断・表現に大きな課題がある。 	<p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフやデータ分析の仕方が定着していない。 ・文章から分かっていることは何かということや何を求めるのかを読み取る力が弱い。
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの読み取りが課題である。 ・思考・判断・表現に大きな課題がある。 	<p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフやデータ分析の仕方が定着していない。 ・文章から分かっていることは何かということや何を求めるのかを読み取る力が弱い。 		

第5学年(令和5年度第6学年)【国語】

項目	項目	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の読み取りや説明文の構造の把握については、平均と同等になり、昨年度より伸びている。 ・漢字を読むことは98%正答しているが、書くことは目標値に届いていない。 ・書くことの領域の正答率が顕著に低くなっている。 	
課題	(課題) <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを問題の意図に即して書くことができない。 	(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味、使い方、基本的な文型の理解が乏しい。児童の実態に応じて丁寧に指導する必要がある。

第5学年(令和5年度第6学年)【算数】

項目	項目	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にどの領域についても、正答率が低い。 ・活用問題の正答率が低く、文章から必要な情報を抜き出せていない様子が見られる。 	
課題	(課題) <ul style="list-style-type: none"> ・特に図形、データ活用の領域に低さが見られる。 	(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> ・空間認知を苦手とする児童が多い。 ・複数ある情報から必要な情報を取り出すことが苦手である。

第6学年(令和5年度中学校第1学年)【国語】

項目	項目		
考察	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に取り組む態度や知識・技能に関しては、市町村平均を上回っている。 漢字を読むこと、書くことに関しては、全国平均を上回っている。 		
課題	<table border="1"> <tr> <td>(課題) 問題の内容は、「文章を書く」に課題がある。 領域「書くこと」、観点「主体的に学習に取り組む態度」に課題がある</td> <td>(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> 文章の書き方が分からない。 説明的文章の読み取り方が分からない。 指示語などの意味を分かっていない。 読書をする時間が不足している。 </td> </tr> </table>	(課題) 問題の内容は、「文章を書く」に課題がある。 領域「書くこと」、観点「主体的に学習に取り組む態度」に課題がある	(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> 文章の書き方が分からない。 説明的文章の読み取り方が分からない。 指示語などの意味を分かっていない。 読書をする時間が不足している。
(課題) 問題の内容は、「文章を書く」に課題がある。 領域「書くこと」、観点「主体的に学習に取り組む態度」に課題がある	(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> 文章の書き方が分からない。 説明的文章の読み取り方が分からない。 指示語などの意味を分かっていない。 読書をする時間が不足している。 		

第6学年(令和5年度中学校第1学年)【算数】

項目	項目		
考察	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能や主体的に取り組む態度に関しては、市町村平均を上回っている。 円の面積や点対称の作図、図形の縮図については、全国平均を大きく上回っている。。 		
課題	<table border="1"> <tr> <td>(課題) 問題の内容は、「分数のかけ算・わり算」と「文字と式」に課題がある。領域「数と計算」、観点「知識・技能」に課題がある。</td> <td>(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> 計算問題の繰り返しなどの、習熟機会が不足している。 数量関係を比に表すことや、それを利用して問題解決に生かすことが理解できていない。 個に応じた指導が十分にできていない。 </td> </tr> </table>	(課題) 問題の内容は、「分数のかけ算・わり算」と「文字と式」に課題がある。領域「数と計算」、観点「知識・技能」に課題がある。	(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> 計算問題の繰り返しなどの、習熟機会が不足している。 数量関係を比に表すことや、それを利用して問題解決に生かすことが理解できていない。 個に応じた指導が十分にできていない。
(課題) 問題の内容は、「分数のかけ算・わり算」と「文字と式」に課題がある。領域「数と計算」、観点「知識・技能」に課題がある。	(要因分析) <ul style="list-style-type: none"> 計算問題の繰り返しなどの、習熟機会が不足している。 数量関係を比に表すことや、それを利用して問題解決に生かすことが理解できていない。 個に応じた指導が十分にできていない。 		

(2) 全国学力・学習状況調査(令和4年4月実施)

国語

考察(問題と結果の分析)

・「言葉の特徴や使い方に関する事項」(知識・技能)は国や県の平均正答率よりやや低い。
・「言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えること」は出来ていた。一方で、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」における「思考力、判断力、表現力等」は国や県の平均正答率より大きく下回っていた。

課題の要因分析

・国語科においては、学習の内容「話すこと」「聞くこと」「読むこと」が基礎・基本となる知識・技能が十分に理解できていなかった。また、それぞれの内容において、内容を習得するための思考力、判断力、表現力に課題があると考えられる。



各学年における重点指導事項

6年	・単元のめあて、本時のめあてを明確にすることで見通しをもった学習をし、学習内容や「振り返り」を書き、自分の変容などに気付かせる。
5年	・基本的な話型や表現を提示し、書く活動の充実を図る。語彙を増やすことで児童に書きたいと思わせるように題材を工夫する。
4年	・まとまりに気を付け、書きたいことを中心となる事柄を明確にし、主語と述語の関係に注意して文章を書く体験を重ねる。
3年	・文章の主語と述語を捉えることができるよう、「読むこと」の学習で意識的に指導する。
2年	・教材文を読み、なぜそう思ったかななどの根拠を明確にして、自分なりの感想を書く体験を重ねる。
1年	・毎時の音読や継続的な読書活動、並行読書を通して、語彙力を向上させたり、想像力を働かせて読み取ったりする力を付ける。

算数

考察（問題と結果の分析）

・学習指導要領の領域区分「A数と計算」「B図形」「C変化と関係」「Dデータの活用」において、どの区分も国や県の平均正答率よりもやや低い。とくに、「B図形」「Dデータの活用」においては、国や県と比べると平均正答率が低かった。

課題の要因分析

・「C変化と関係」以外は、どの領域においても、学習内容が十分に理解できていなかったと考えられる。
・記述式の問題の正答率が低かったことから、思考力、判断力、表現力に課題があると考えられる。



各学年における重点指導事項

6年	・既習事項の活用ができるように、単元に応じて既習事項を想起させる活動を行う。 ・復習を取り入れ、基礎・基本を身に付ける。
5年	・前時の学習を大型モニタに映し、問題の相違点を見つけるなど、ICT機器を活用して学習課題を視覚的に捉えさせる。
4年	・既習事項との共通点や相違点などから本時の課題を明確にし、既習事項を活用したり、式や筆算、図、絵などを使ったりして、自分なりの方法で問題を解決する経験を積み重ねる。 ・自分の考えを友達に伝える活動を積み重ねる。
3年	・多様な数学的活動を工夫し、測定や作図などの活動を通して量感を養ったり実感をともなった理解ができるようにする。
2年	・文章問題をしっかり読み取らせるために線を引いたり、図を用いたりすることで問題文をイメージできるようにし、立式につなげるようにする。
1年	・文章問題をしっかり読み取らせるために、図を用いたりすることで問題文をイメージできるようにする。

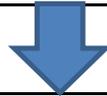
理科

考察（問題と結果の分析）

・「粒子」を柱とする領域においては国や県の平均正答率を上回る結果となった。「エネルギー」「生命」「地球」を柱とする領域においては、どの区分も国や県の平均正答率を下回っていた。とくに、「生命」を柱とする領域においては、国や県と大きく差が開く結果であった。

課題の要因分析

・「生命」を柱とする領域が国や県の平均正答率を大きく下回っていることから、人の体や植物・生物等の仕組みに関する学習内容が十分に理解できていなかった児童が多かったと考えられる。
 ・「知識・技能」の観点に関する問題は国や県の平均正答率より高かったことや、記述式の問題の正答率が低かったことなどから、思考力、判断力、表現力に課題があると考えられる。



各学年における重点指導事項

6年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物や現象から問題を見出し、より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力が育つよう、授業を展開する。 ・実物や動画、絵などを見ることから、細かなイメージがわくようにしていく。 ・実験や観察に対する予想など、自分の考えを友達に伝える活動を積み重ねていく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説をもとに、解決の方法を発想するといった問題解決の力がつくような授業展開を行う。 ・ICT端末・機器を活用し、学習課題を視覚的に捉えさせる。 ・実験や観察に対する予想など、自分の考えを友達に伝える活動を積み重ねていく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の内容や生活経験をもとに、予想や仮説を発想するといった問題解決の力がつくような経験を積んでいく。 ・実験や観察に対する予想など、自分の考えを友達に伝える活動を積み重ねていく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験などの多様な活動を工夫し、実感をともなった知識を身に付けたり、理科の見方・考え方を働かせたりすることができるようにする。 ・実験や観察に対する予想など、自分の考えを友達に伝える活動を積み重ねていく。
2年	
1年	

(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和4年5月実施)

国語

学年	項目
4年	<p>考察(現状分析・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸びは、県と比較すると1ポイント大きい。しかし、依然として学力レベルは、県の平均よりも低い。 ・教科の領域等(言葉の特徴や使い方、話すこと・聞くこと、読むこと等)においても県との差が大きい。記述式の問題の正答率が低い。 ・引き続き、基礎・基本的な知識・技能を習得させながら、学力を全体的に伸ばしていく必要がある。 <p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルは県より低いものの、個に応じた指導により多くの児童の学力を伸ばすことができていた。 ・基礎・基本的な知識・技能の習得が出来ていない児童が多数いるため、引き続き基本的事項の反復学習をしていく必要がある。 ・記述式問題の正答率が低く、無回答率も高いので、普段の授業から書く経験を十分にさせていく。
5年	<p>考察(児童の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸びの平均は、県と比較すると、2ポイント低いが、4年次と比較すると1ポイント伸びている。 ・どの領域においても、県の正答率との差が大きく、各問題の平均正答率の低さが目立つ。 ・語句の意味を問われる問題、文章の中心文を問われる問題は、県の正答率との差が特に大きい。 ・読むことの領域では、無解答率が高くなっている。 <p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の学習全般に課題が見られるため、まずは語句の意味を調べる活動を定期的に取り組んでいく。 ・文を読むための基礎となる、主語・述語・修飾語・接続語の意味や文の中での役割を丁寧に繰り返し指導する。 ・児童が、主体的に国語の学習に取り組めるよう、教材文を読む楽しさが味わえるような発問や言語活動を工夫する。
6年	<p>考察(児童の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルの割合が、県より低いが、学力の伸びは県と同じである。 ・読むことと、書くこと、情報の扱い方、我が国の言語文化において課題があり、県の平均よりも大きく下回っている。その他の領域も県よりやや低い傾向がある。 <p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科で板書計画を作成し、授業に取り組んだため、ねらいが明確な授業をすることができた。 ・個人の学力差が大きい。個に応じた指導に力を入れる必要がある。 ・読むこと、書くことの指導に力を入れていく。

算数

学年	項目
4年	<p>考察(現状分析・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸びは、県と比較すると1ポイント低い。学力レベルも、県の平均よりやや低い。 ・教科の領域等(数と計算、図形、データの活用等)においても県との差が大きい。記述式の問題の正答率は県よりやや高い。 ・引き続き、基礎的・基本的な知識・技能を習得させながら、学力を全体的に伸ばしていく必要がある。 <p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合わせた授業改善、個に応じた指導により、ある程度の児童の学力を伸ばす事ができていた。 ・下位層の児童に合わせた学習の工夫(個別指導、習熟度別等)も必要であり、下位層の児童の学力の伸びをねらった授業を行っていく。 ・基礎・基本的な学習を振り返る活動を授業で行うなど、国語同様、反復学習を大切にして指導にあたっていく。
5年	<p>考察(児童の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸びは、県平均よりも1ポイント上回っている。正答率は、県平均よりも低い。 ・複数の資料から、必要な情報を選ぶ問題は、無解答率が高くなっている。 ・データ活用の分野の正答率は、県平均と同程度である。 ・記述式問題の正答率が非常に低い。 <p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年から、少人数指導を継続してきた結果、無解答の問題が少なくなっている。少人数での細やかな指導を継続し、粘り強く問題に向かう姿勢をさらに高めていく。 ・文章題への抵抗感が大きいいため、問題文から必要な情報を選び出し、整理することができるよう、スモールステップで学習させていく。
6年	<p>考察(児童の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルの割合が、県と同程度だが、学力の伸びは県よりもやや高い。 ・思考・判断・表現を問う問題や記述式の問題が県の平均よりやや高い。一方で、知識・技能を問う基本的な問題がやや低い。 <p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科で板書計画を作成し、授業に取り組んだため、明確な授業をすることができた。 ・個人の学力差がある。個に応じた指導に力を入れる必要がある。

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組

① 国語科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- ・相手に自分の思いや考えを適切に伝えるために話したり、話し手が伝えたいことを正しく理解しながら聞いたりする力
- ・自分から書くことを見付け、相手や目的、意図に応じて正しく明確に伝わるように書く力
- ・文章の内容、要旨、登場人物の相互関係や心情等を正しく読み取っていく力
- ・「話す」「聞く」「書く」「読む」を正しく行うための基礎・基本となる言語能力・語彙力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組（○は特に重点とする取組）	取組の効果
1年	<p>○毎時の音読や継続的な読書活動、並行読書を通して、語彙力を向上させたり、想像力を働かせて読み取ったりする力を付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促音、拗音、長音、助詞の書き方や使い方を理解する。 ・文章の中で言葉を正しく使えるように、自分の考えや感想文、生活科の観察カードなどを繰り返し書く活動を行う。 ・継続的に漢字練習を行う。小テスト等に取り組み、漢字を正しく書いたり使ったりする力を身に付ける。 	
2年	<p>○教材文を読み、なぜそう思ったかを明確にして、自分なりの考えをもつ経験を重ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の音読、読書活動に継続的に取り組む。 ・「順序をあらわすことば」「理由をあらわすことば」を意識して読み取り、文章構成を理解する。 ・誰が何をしたかや、何があったかを、順序に気をつけて読む。 ・読んで分かったことと、自分の知っていることを比べる。 ・小集団の中で、自分の意見を伝え合う場や感想を交流する場を設ける。 ・継続的に漢字練習を行う。小テスト等に取り組み、漢字を正しく書いたり使ったりする力を身に付ける。 	

3年	<p>○文章の主語と述語を捉え、「読むこと」の学習で登場人物の変化や筆者の考えを読み取ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙形成のために、漢字の熟語調べや国語辞典を使った意味調べ、短作文会話などに継続的に取り組む。 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句、段落とその中心となる語や文に着目させて読むことを指導する。 ・「問い」と「答え」に気をつけて読むことで、文章全体の組み立てや段落の中心を捉えられるようにする。 ・ペアや小グループで自分の考えを伝え合う活動を意図的に取り入れる。 ・既習漢字の定着を図るために、デジタマを活用した復習を行う。 ・毎時間振り返りを書かせ、その日の学習について自分で説明させる。
4年	<p>○まとまりに気を付け、書きたいことを中心とする事柄を明確にもち、主語と述語の関係に注意して文章を書く体験を重ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の音読、読書活動により、多くの文章にふれさせ、文章を読んだり書いたりすることへの抵抗をなくす。 ・書く活動では、書き方の例を示し、自ら考えたことを自分の言葉で書くことができるようにする。 ・国語辞典を使った意味調べや、漢字辞典を使った漢字及び漢字の使い方調べを行う。 ・ペア学習や小グループなどで意見を伝え合う場を設け、自分の考えが深められるようにする。 ・単元のめあて、本時のめあてを明確にすることで、見通しをもった学習をする。また、何を学び、何が分かったかを考えて、まとめや振り返りを書き、自分の変容などを記録させる。
5年	<p>○文章の構成やまとまりごとの内容を捉えながら読むことができるよう、「読むこと」の学習で意識的に指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習課題やめあてを明確に持たせ、児童相互の考えのズレを生かした学習活動を行う。 ・毎日、音読を行うことで、言葉を通して内容や考えを理解する力を養う。読書活動を推進することで、読む力の素地を養う。 ・既習漢字の定着を図るために、授業の始めに漢字学習タイムを設ける。 ・話している人と自分の考えを比べながら聞く。 ・自分の考えをまとめ、伝え合う活動を各単元で取り入れる
6年	<p>○単元のめあて、本時のめあてを明確にすることで見通しをもった学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習を取り入れ、学習内容を定着させる。 ・音読活動を充実させたり、読書活動に取り組みせたりすることで読む力の素地を養う。 ・漢字小テストを実施し、基礎・基本の定着を図る。 ・国語辞典を活用し、語彙を増やす。 ・板書以外の授業で聞いたことを、簡潔にメモできるようにさせる。 ・目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりする活動を行う。 ・事実や感想、意見と区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫させる。

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

② 社会科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- ・資料から読み取り、特徴や傾向を説明する力
- ・必要な資料を選択して、読み取る力
- ・社会的事象などに興味をもち、自ら調べる力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組（○は特に重点とする取組）	取組の効果
3年	<p>○本時の「問い」を明確にして学習し、何を学び、何が分かったかを考えて、授業の終わり及び単元の終わりに「振り返り」を書くことを積み重ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方位や地図記号、地図の見方などの基礎知識を繰り返し確認させる。 ・毎時間小見出しから学習問題を考えて、記述させる。 (例：○○はどのように～しているのだろう) ・資料の見方を丁寧に指導し、情報を整理、分析する力を養う。 	
4年	<p>○教科書や資料から分かったことや気付いたこと、疑問などをノートに書かせて、発表し合うことで互いの意見を交流させてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問い」を明確にして見通しをもった学習をし、まとめや「振り返り」を書かせることで、学習内容を振り返ることができるようにする。 ・学習したことを新聞にまとめる活動などを通して、学校図書室やICT端末で自ら必要な資料を検索・選択・使用する力を高める。 ・ICT機器を効果的に活用し、視覚的に理解させる。 	
5年	<p>○「問い」を明確にして見通しをもった学習をし、「まとめ」や「振り返り」を書かせることで、学習内容や変容を振り返ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な資料の読み取りの力を身に付けさせるために、グラフは何を表したのか、縦軸横軸が何を示しているかを確認させて、自力で読み取る時間の確保をし、資料の読み取りや変化の要因を多角的に考えさせる。 ・工場の製造現場の様子を映像で確認したり、働いている人の様子を調べたりすることで、興味関心を高めさせる。 ・デジタル教材（動画や画像資料）を活用し、学習についての理解を深める。 	
6年	<p>○「課題」を明確にして見通しをもった学習をし、「まとめ」や「振り返り」を書かせ、歴史の流れや政治の仕組みなどに対する理解を深めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに学習内容をノートにまとめさせる活動を通して、思考力、判断力、表現力等を養う。 ・政治について関心をもたせるため、新聞・ニュースなどにふれる機会や日々の生活との関連を見つけさせるなどの機会をつくる。 ・資料を多角的に捉え、学習したことを単元毎に整理させることで、社会的事象に対する知識・理解を深めさせる。 ・毎単元デジタル教材（動画や画像資料）などを活用し、学習についての理解を深める。 	

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

③ 算数科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- ・基礎・基本となる知識の習得、そしてその知識を活用していく力
- ・既習内容を活用していく力
- ・筋道を立てて考える力、さらには数学的に表現していく力

各学年の授業改善

学 年	具体的な取組（○は特に重点とする取組）	取組の効 果
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ○文章問題をしっかり読み取らせるために、図を用いることで問題文をイメージできるようにする。 ・基礎的・基本的な計算技能の習得に向け、継続的な計算練習を行う。 ・課題をつくる活動・見通しをもたせる活動を充実させるため、既習事項との共通点や相違点を見つけさせ、「問題をつかむ」学習過程に力を入れる。 ・具体物を操作し、場面をイメージしながら数量関係や図形の特徴などを考えさせる。 	
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ○文章問題をしっかり読み取らせるために線を引いたり、図を用いたりすることで問題文をイメージできるようにし、立式につなげるようにする。 ・基礎的・基本的な計算技能の習得に向け、継続的な計算練習を行う。 ・設問文章から場面をとらえながら筋道を立てて考え、自力で解決する場面を確保し積み重ねる。 ・ICTを用いた数学的活動や意見交流を取り入れる。 ・測定など、具体的な体験を通して量感を養う。 ・家庭と協力して九九カードに取り組み、確実な習得を目指す。 	
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な算数的活動を工夫し、測定や作図などの活動を通して量感を養ったり実感をともなった知識を身に付けたりできるようにする。 ・少人数指導を取り入れ、個に応じた指導を行い、基礎・基本の定着を図る。 ・既習事項との共通点や違いなどから本時の課題を明確にする。 ・実際に身の回りの測定や作図など実感を伴った数学的活動を行うことで知識・技能の定着を図る。 ・思考ツールを活用して自分の考えをノートに視覚化させ、記述によって説明させる。また、問題場面を絵や図、数直線などで表現させる。 ・ICTを用いた数学的活動や意見交流を取り入れる。 ・習熟の時間を確保する。 	

4年	<p>○既習事項との共通点や違いなどから本時の課題を明確にし、既習事項を活用したり、式や筆算、図、絵など使ったりして自分なりの方法で問題を解決する経験を積む。自分の考えを友達に伝える活動も積み重ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を繰り返し読んだり、数直線や図、言葉の式に表したりして、問題の構造を捉えられるようにするとともに、答えの見通しをもたせて立式させるようにする。 ・課題やまとめに提示した言葉を用いながら「振り返り」を書かせて、学習内容や変容が分かるようにする。 ・ICT機器を用いた数学的活動や意見交流を取り入れる。 ・個に応じた指導や支援を行い、基礎・基本の定着を図る。
5年	<p>○前時までの復習を繰り返し行うことで、基礎・基本の定着を図るとともに、問題の相違点から本時の課題へスムーズに取り組めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文を絵や図、に置き換え表現する指導の充実を図り、題意を捉える力を養う。 ・単位量あたりの大きさや割合では、数直線を活用し求め方を理解させる。 ・既習内容との比較から、本時の課題を設定する活動を充実させる。 ・課題に正対したまとめが書けるようにする。 ・適用、適応問題に取り組む活動を充実させ、学習の定着を図る。 ・ノート指導やICT端末の活用を充実させ、自力解決の時間を十分に確保する。
6年	<p>○既習事項の活用ができるように、単元に応じて既習事項を思い出させる活動を行うとともに、学習課題を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文を音読し、数直線や図などに表すことで問題場面の状況や条件を捉える力を養う。 ・空間の中にあるものの位置を正しく捉えさせるために、実際に作図をしたり操作ができる具体物を用いたりして自力解決ができるようにしていく。 ・既習事項を復習するプリントを用意し取り組ませ、自力解決に生かすことができるように促す。 ・本時の課題を明確にし、課題解決に使える既習事項を意識させ、課題解決に取り組ませる。また、何を学び、何が分かったかなどを考え、まとめを書かせる。 ・単元の学習内容に応じて、児童1人1人にICT端末を準備し、自力解決の充実を図る。

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

④ 理科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- ・既習の知識・技能を活用しつつ、見通しをもって観察・実験等を行う力
- ・観察・実験等の結果を整理し考察し表現できる力
- ・意見を交換したり議論したりして自分の考えを深めようとする力
- ・観察、実験等の技能やマナーを高め、事故防止に努める力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組（○は特に重点とする取組）	取組の効果
3年	<p>○本時のめあてを明確にして学習し、根拠を明らかにしながら、何を学び、何が分かったかを考えて、授業の終わり及び単元の終わりに「振り返り」を書くことを積み重ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の問題解決学習（疑問→課題→予想→実験方法→実験→結果→考察→まとめ）の仕方を身に付けられるように、学習過程に沿って学習を積み重ねる。そのためにノートを取り方も指導する。 ・思考の観点を明確にして観察・実験等を行う。 ・観察や実験の結果の考察では比較する視点を焦点化して指導する。 ・意見交換を行う時間を確保し、小グループから全体へ交流を広げる。 	
4年	<p>○学習過程を定着させ、学習内容（課題、予想、観察・実験、結果、考察）を整理してとらえるとともに、観察・予想・結果や考察などを自分の言葉でまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入で実物や映像を活用したり、普段の生活を想起させたりして、問題意識をもって活動に取り組みさせる。 ・学習の中で気付いたことや疑問などが出た場合は、その都度記録させて共有したり、実験や観察を通して学んだことを、実生活場面ではどうなるかを考えさせたりする。 	
5年	<p>○毎時間自分の考え（予想や考察）をもたせ、ノートに記述させることを積み重ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を定着させ、学習内容（課題、予想、観察・実験、結果、考察・まとめ）を整理して捉えられるようにする。 ・実物や映像等に触れさせることで、より実生活に即した身近な現象として捉えることができるようにする。 ・既習事項の復習等でデジタル教科書を積極的に活用し、理解の定着を図る。 ・観察・実験等の行い方や道具の扱い方を確認し、安全に学習が進められるように繰り返し指導していく。 	

6
年

○既習内容や身近な生活などから自分の考え（予想）をもたせ、ノートに書かせることを毎単元行う。

- ・学習過程を定着させ、学習内容（課題、予想、観察・実験、結果、考察・まとめ）を整理して捉えるとともに、結果から導かれる考察を自分の言葉でまとめさせる。
- ・既習事項の復習などでデジタル教科書を積極的に活用し、定着を図る。
- ・観察・実験等の行い方や道具の扱い方を確認し、安全な学習の進め方について、自ら考えられるように、繰り返し指導する。

A・・・取組の効果が十分に見られた

B・・・今後も課題として取り組む

C・・・取組を見直す

⑤ 他教科の授業改善

○生活科

1年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動や体験を通し、自分自身、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、気付いたことを表現する力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> 見付ける、比べる、例える等を取り入れ、学習活動を工夫する。また、気付いたことを観察カードに書き留めるなど、体験を振り返り、表現する機会を設ける。 単元に応じてICT端末を活用する（学校探検やアサガオの観察等）。情報を共有しながら、体験・観察活動を深められるようにする。
2年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動や体験を通し、自分自身、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、気付いたことを表現する力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> 気付きを確かなものにしていくために、観察や活動の際には「見つける」「比べる」「例える」「見通す」「工夫する」という多様な学習活動を行う。 「町たんけん」など体験的な活動を通して、地域との関わりにつづき、社会との関わりについて深められるようにする。

○音楽科

1年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現に対する思いをもち、音楽表現の楽しさに気付く力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> 可能な限りICT機器を活用し、曲を聴いて拍に合わせて体を動かしたり、体でイメージを表現したりする。また、拍の流れによってカスタネットや手拍子でリズム遊びをさせる等の音楽体験を通して、主体的に学習を進められるようにする。
2年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現や思いをもち、音楽表現の楽しさに気付く力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、グループや教師対児童で音楽全般に親しみ、リズム楽器中心に演奏させる等の音楽体験などを通して、主体的に学習を進められるようにする。
3年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現に対する思いや意図をもち、音楽表現の楽しさを感じ取れる力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、副次的な旋律を重ねて楽しんだり、楽器固有の音色を聴き取ったり演奏できたり、感染症対策に留意した表現活動等の音楽体験を通して、主体的に学習を進められるようにする。
4年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現に対する思いや意図をもち、音楽表現の楽しさを感じ取れる力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、互いのパートを聴き合ったり曲の特徴を生かして演奏したり、音域を広げて曲を楽しむ等の音楽経験を通して、主体的に学習を進められるようにする。
5年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現に対する思いや意図をもち、音楽表現の喜びを味わえる力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、低音や和音の働きを感じ取って演奏したり、速度や強弱等、表情豊かに演奏したりする等の音楽体験を通して、主体的に学習を進められるようにする。

6年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現に対する思いや意図をもち、音楽表現の喜びを味わえる力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、旋律や和音の響きの変化をとらえて演奏したり、強弱や速度等による表現の違いを見つけたりして、作曲家や自身の思いを生かす表現の工夫等の音楽体験を通して、主体的に学習を進められるようにする。
○図画工作科	
1年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をする力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材名との出会いを大切に、発想をわき立たせる導入にする。 ・手や体全体の感覚を働かせ、いろいろな材料や用具を使い、表現の仕方を工夫して自分の思いを表現させる。
2年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な材料などを基に、表したいことを思いついたり、工夫して表したりする力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形的な創作活動において、技能を身に付けさせるための時間を確保する。 ・感じたことや材料などから表したいことを思いつき、形や色、つくり方などを考え工夫して表す。 ・身の回りの作品などの形や色などから、自分の感覚や行為を通して面白さに気付いたり、楽しさを感じたりして、見方や感じ方を広げる。
3年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料などから豊かな発想をし、手や体を十分に働かせ、表し方を工夫する造形的な能力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が存分に題材や材料に親しむことができるよう、十分な活動時間を確保する。 ・身近である木材や空き容器などを思いのままに切ったり分解したり組み合わせたりする活動を行う。 ・形や色、材料の特徴を生かして絵の具やクレヨンなどの色の組合せ、動く仕組みを工夫してつくる。
4年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料などから豊かな発想をし、手や体を十分に働かせ、表し方を工夫する造形的な能力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近にある木材や空き容器、紙など自分の発想をもちながら切ったり分解したり組み合わせたりする。身近である教室、校庭、遊具などの場所の良さを生かした活動を行う。 ・材料の特徴をとらえ、絵の具やクレヨンなどの色の組合せと紙や木材の動く仕組みを工夫してつくる。 ・鑑賞から友達や身近な作品の良さを感じとり、自分の発想と表現の力をつける。
5年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をする力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材との出会いを大切に、発想をわき立たせる導入にする。 ・材料の形や素材の良さに気づき、組み合わせ方などを試しながら想像を膨らます活動を十分に行う。 ・鑑賞を通して友達の作品の表現の仕方、発想の良さを伝え合い、表現方法の幅を増やす。

6年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表現方法などについて考え、創造的に発想や構想をする力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材との出会いを大切に、知識・技能をわき立たせる導入にする。 ・絵や立体の形や色、材料の特徴や構成の美しさ、用途を考えながら表現力をつける。 ・友達同士で作品の良いところを主体的に伝え合う活動を取り入れるなど、鑑賞の授業の充実を図る。
----	---

○家庭科

5年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能 ・日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、主体的に解決方法を考える力 ・家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する態度 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に必要な基礎的知識の定着を図り、実践的・体験的な活動を通し技能を習得させる。 ・学習過程のふり返りを必ず実践し、何ができたか身に付いたかを自覚させる。 ・学習した技能を生活実践力として行き、定着を図る。
----	--

6年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能 ・日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、主体的に解決方法を考える力 ・家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する態度 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統性のある実践的・体験的な活動を充実させる。 ・学習過程のふり返りを必ず実践し、何ができたか身についたかを自覚させる。 ・家庭での学習を実施し、単元の終わりに実践を取り入れ、定着を図る。
----	---

○体育科

1年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なきまりや活動を工夫して、健康・安全に留意して意欲的に運動する力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりを明確にし、楽しく運動できるようにする。また、場の設定やルールを児童の力に応じて工夫する。 ・めあてをもって学習に取り組ませるために、学習のゴール（できるようになる技）を提示する。 ・児童の良い動きを紹介したり、見つけさせたりすることを通して、基本的な体の動きや技能を身に付けられるようにする。 ・授業の中で十分な運動量を確保し、遊びの中で多くの動きを経験させる。
----	--

2年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なきまりや活動を工夫して、健康・安全に留意して意欲的に運動する力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の仕方や競走のルールなどを児童の力に応じて工夫する。 ・運動する場所や器械・器具の安全に気を付けられるように話し合う機会を作る。 ・めあてをもって学習に取り組ませ、何が分かったか、身に付いたか振り返らせる。 ・授業の中で十分な運動量を確保し、遊びの中で多くの動きを経験させる。
----	---

3年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題をもち、技能を身に付けるための活動を工夫する力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に関する指導を徹底する。 ・毎時間ワークシートのめあてを確認し、目的意識をもって運動を行わせる。 ・運動のコツや自分の課題など、その日の学習について毎時間振り返りを書かせる。 ・単元の後半では、練習方法を友達と教え合ったり、できるようになったことや技能の向上を友達と認め合ったりする場面をもつ。 ・ICT機器を活用し、自分の課題を見つけたり課題解決の方法を考えたりする。
4年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題をもち、技能を身に付けるための活動を工夫する力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの運動の特性に触れたり楽しさを味わったりしながら、基本的な動きや技能を身に付ける。 ・学習カードを活用し、皆の課題や自分の課題を書いたり練習方法の工夫を記録したりする。 ・単元の後半では、練習方法を友達と教え合ったり、できるようになったことや技能の向上を友達と認め合ったりする場面をもつ。 ・ICT機器を活用し、自分の課題を見付けたり課題解決の方法を考えたりする。 ・授業の中で十分な運動量を確保し、それぞれの運動に必要な技能を身に付けさせる。
5年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題をもち、運動の特性に応じた技能を身に付けるための活動を工夫する力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを明確に示すことで授業の見通しをもち、授業の終わりには、できるようになったことを振り返る。 ・学習カードを活用し、皆の課題や自分の課題を書いたり練習方法の工夫を記録したりする。 ・グループ学習を取り入れ、練習方法を友達と教え合ったり、できるようになったことや技能の向上を認め合ったりする。 ・示範やICT機器を活用し、正しい動きと自分の動きを見比べることで、課題を見つけたり課題解決の方法を考えたりする。 ・授業の中で十分な運動量を確保し、それぞれの運動に応じた基本的な技能を身に付けさせる。
6年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題をもち、運動の特性に応じた技能を身に付けるための活動を工夫する力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを明確にすることで授業の見通しをもち、授業の終わりには、できるようになったことを振り返る。 ・学習カードを活用し、単元の課題や自分のめあてを書いたり練習方法の工夫を記録したりする。 ・学習内容に応じて、ペア学習を取り入れ、練習方法を友達と教え合ったり、できるようになったことや技能の向上を認め合ったりする。 ・ICT機器を活用し、自分のフォームを確認することで、課題を見つけたり課題解決の方法を考えたりする。 ・授業の中で十分な運動量を確保し、安全に気を付けながら、それぞれの運動に応じた基本的な技能を身に付けさせる。

○英語活動・外国語活動・外国語科

1年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語活動を楽しみ、進んで参加しようとする力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心が高まるような授業を展開していく。 ・ALTの協力を得て、指導体制の充実を図る。 ・児童が英語を発音する機会を多く設ける。 ・ゲーム活動やコミュニケーション活動を多く取り入れることで、英語に慣れていけるような場面を多く取り入れる。
2年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語活動を楽しみ、進んで活動する力 ・簡単な単語や文を使って、コミュニケーションをとろうとする力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心が高まるような授業を展開していく。 ・ALTの協力を得て、指導体制の充実を図る。 ・児童が英語を発音する機会を多く設ける。 ・ゲーム活動やコミュニケーション活動を多く取り入れることで、英語に慣れていけるような場面を多く取り入れる。
3年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語や文化について体験的に理解し、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れようとする力 ・身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力 ・言語やその背景にある文化に対する理解をし、相手に配慮しながら、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声を聞いたり、発音や発話したりする活動を充実させる。 ・ALTとのSmall talkを取り入れ、ALTと担任のやりとりから、教師と児童へのやりとりへと発展させていくようにする。 ・児童が自ら発話したくなるような言語活動を取り入れる。
4年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しもうとする力 ・身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力 ・言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任が表情やジェスチャー等で外国語を表現する。 ・ALTの協力を得て、指導体制の充実を図る。 ・児童が外国語を用いて発音する機会を多く使い、外国語で伝え合える場面を適宜設ける。 ・ゲーム活動やコミュニケーション活動を多く取り入れることで、外国語に慣れ親しめるような場面を多く取り入れる。

5年	<p>《身に付させる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語と外国語との言語等の違いに気付き、これらの知識を理解する。聞くこと、読むこと、話すこと（やりとり）、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けようとする力 ・身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとする力 ・外国語の背景にある文化に対する理解を知り、他者に配慮しながら、進んで外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしていく力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題を提供するなど児童の興味・関心が高まるような授業を展開していく。 ・ALTと打ち合わせをし、協力を得ながら、指導体制の充実を図る。 ・英語を書く場面を設定し、書くことに慣れさせていく。 ・テキストをもとに、簡単な外国語を読む・書く活動を取り入れ、基礎的な技能の習得を図る。 ・ゲーム活動やコミュニケーション活動を多く取り入れる中で、外国語に慣れ親しみ、外国語を活用する機会を増やし、実際に外国語で伝え合えるようにしていく。 ・既習表現を繰り返し使用する機会を増やし、学習の定着を図る。
6年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語と外国語との言語等の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けようとする力。 ・身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとする力。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする力。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心が高まるような授業を展開していく。 ・ALTと打ち合わせをし、協力を得ながら、指導体制の充実を図る。 ・英語を書く場面を毎時間設定し、書くことに慣れさせていく。 ・テキストをもとに、外国語を読む・書く活動を取り入れ、基礎的な技能の習得を図る。 ・ゲーム活動やコミュニケーション活動を多く取り入れる中で、外国語に慣れ親しみ、外国語を活用する機会を増やし、実際に外国語で伝え合えるようにしていく。 ・既習表現を繰り返し使用する機会を増やし、学習の定着を図る。
○特別の教科 道徳	
1年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のよさを認め、助け合う心を育てる。 ・自他の生命を大切にする心を育てる。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的諸価値についての理解を基にした道徳の授業を行っていく。 ・大きな声で気持ちのよい挨拶、丁寧な言葉遣い、返事などに心掛けて、明るく接することができるように指導していく。 ・身近にいる友達と仲よくし、助け合えるように指導していく。
2年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のよさを認め、助け合う心を育てる。 ・自他の生命を大切にする心を育てる。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値についての理解を基にした道徳の授業を行っていく。 ・時と場に応じた気持ちのよい挨拶、言葉遣い、所作などに心掛け、明るく接することができるように指導していく。 ・より多くの友達と仲よくし、助け合えるように指導していく。

3年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の立場を考えて、思いやる心を育てる。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳的諸価値についての理解を基にした道徳の授業を行っていく。 教材の世界と自分の生活を結び付けながら、多面的・多角的に価値について考える活動を多く取り入れる。 小集団での議論から学級全体への議論へと発展させ、一人一人の納得に繋げるようにする。 学習の終わりには、本時で学んだこと、分かったこと、これまでの経験とこれからの自分を比べて考えたことを振り返りとして書かせる。
4年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の立場を考えて、思いやる心を育てる。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳的諸価値についての理解を基にした道徳の授業を行っていく。 相手の存在を受け入れ、相手を思いやり、自分で判断し、自ら進んで親切な行動ができるように指導していく。 学習の終わりには、本時で学んだこと、分かったこと、これまでの経験とこれからの自分の比べて考えたことなどを書かせる。
5年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none"> 自他の生命を尊重し、思いやりの心をもつ。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が身に付けている価値理解や概念から、思考のズレを生み、価値理解を広げたり深めたりする授業を行っていく。 身近にいる周りの人へ思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にしたいと思う心情や実際に行動にしようとする態度を養う。 多面的・多角的な角度で話し合い活動をし、多様な価値観があることを知り尊重する気持ちを育てる。
6年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none"> 自他の生命を尊重し、思いやりの心をもつ。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳的諸価値についての理解を基にした道徳の授業を行っていく。 誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にするように指導していく。 ワークシートを活用し、考えたことを書く活動を行っていく。 多面的・多角的な角度で話し合い活動をし、多様な価値観があることを知り、尊重する気持ちを育むとともに、今までの自分をふり返ったり、これからの自分を見つめたりすることで、自己の生き方を考えさせる。

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間の授業の充実 ○読書活動の充実 ○教科書の音読 ○20分の業間休み ○外国語学習の充実 ○縦割り活動による協働活動の充実 ○幼保小の連携 ○環境教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業で勝負」を合い言葉に、毎時間の授業の充実を図っている。特に国語、算数においては基礎・基本の定着とともに、児童の実態に合わせて、既習事項を生かして各教科の資質・能力を問う発問を行うことで、学力向上を図っている。 ○異学年でペアを作り、読み聞かせを行う「読書ライン」、決まったテーマにそって読む「読書ビンゴ」、教師による本の読み聞かせも実施している。また、本の紹介コーナーの設置や、図書掲示を充実させることでも、読書意欲を喚起している。 ○各教科、教科書のあるものについては、声に出して読む取組を行っている。教科書を読むことで正しい文章構成、表現を覚える機会を設け、確かな読みの力の育成を図っている。 ○業間休みを毎日20分確保することで、広い校庭で思いきり遊んだり、様々な活動を落ち着いて取り組んだりできるようにしている。 ○1・2年生は「英語活動」、3・4年生は「外国語活動」、5・6年生は「外国語科」と、全学年、外国語の学習を実施している。また、指導に関連する研修を学期に1回以上実施して、外国語における授業力向上を図っている。 ○年間を通して行う縦割り班による「遊び集会」や、年1回実施する「みなみっ子まつり」を通して、望ましい人間関係の構築を目指している。 ○1年生が近隣の幼稚園、保育園の園児を招いて、2学期に交流会を行っている。 ○年に2回、全校児童が除草作業、落ち葉拾いを実施している。学校応援団や地域の方も一緒に取り組んでいる。自然豊かな学校を、全員で大切にしている取組を行っている。

家庭教育との連携

<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の習慣化 ○「まなびポケット」の活用 ○一人一台のICT端末の効果的活用 ○情報発信 ○学校応援団による支援 ○個人面談の実施 ○教育相談の実施 ○小中連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習習慣を身に付けさせるための学年に応じた適度な質と量の家庭学習を実施に努めている。 ○年度初めに「家庭学習の進め方」を保護者に配布するとともに、宿題の見届け、確認の協力をしていただいている。 ○「まなびポケット」内の「スクールタクト」「eboard」等を活用できるよう、児童に指導し、保護者にも促している。また、児童には、授業中にも活用することで日常化し、家庭で楽しみながら学習できる情報を発信し、啓発している。 ○授業だけでなく、家庭学習、連絡帳としての活用等、ICT端末の効果的な活用を日々模索しながら、2年生以上において、一人一台のタブレットの活用を実施している。 ○学校の運営方針や学校行事等に関する事、教育活動に関する事の情報学校・学年便り、ホームページで発信し、啓発している。 ○授業支援において、家庭にも要請を行い、応援団とともに支援をいただきながら、学校教育を進めている。 ○1学期前半・2学期後半に個人面談を行うことで、学校と家庭が情報交換・共有を行い、連携を図っている。 ○月に1回「みなみっ子相談室」（教育相談日）を設定し、子供のことについての悩み等のある保護者との連携を図っている。 ○大石南中学校の兼務校教員が本校6年生の授業に入り、支援や情報交換の連携を図っているため、教員同士の小中連携だけでなく、家庭とのやりとりにおいても一助となっている。
--	--